

平成27年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、学校の特色及び工業高校としての社会的ニーズにも考慮して「学校経営計画」を策定し、その中の「学校アクションプラン」において、全日制では4、定時制では2、合計6の重点課題を設定した。各重点課題に対する取り組み状況や評価等はアクションプランに記載したとおりである。

資格取得は学習への興味付けや学力向上、将来の職業選択に繋がるものであり、評議員からは、取得意欲を高めるために、より一層の工夫が必要であることや、多くの資格を取ることの重要性についてご指摘頂いた。生徒指導の充実については、相変わらず発生している自転車事故への対策について話が及び、他の指示に頼ることなく、自ら安全を優先して行動する意識を育成するべきである、とのご助言を頂いた。

進路指導については、昨今の良好な求人状況のもと、75%もの生徒が順調に就職している点をあげ、生徒が各専門学科で学んだ内容をよく活かしている、というお褒めの言葉を頂いた。特別活動に関しては、今後も生徒の意見をよく考慮しながら指導を続けて欲しい、という要望があった。

定時制の重点課題については、資格取得指導の具体的な改善策や、皆勤精勤を促す取り組みにおいて重視すべき事項についてご指摘いただいた。

学校評議員会は2回開催し、重点課題について説明と報告を行った。評議員の方々からは、本校の取り組みについて評価を頂くとともに、数多くの示唆に富んだご助言や励ましの言葉を頂戴した。こうして伺った数多くのご意見を、今後のより良い学校経営に生かしていきたい。

7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 今年度の学校評価の結果に基づき、本校の現状と課題について職員全体で謙虚に受け止め、計画の改善と取り組み体制の強化に努めていく。
- (2) 達成目標の妥当性を十分に検討し、また具体的な調査方法についても工夫して、重点課題への効果的な取り組みを目指す。
- (3) アクションプランを公開することにより、学校の取り組みに対する地域や保護者の理解を頂き、学校とのより緊密な連携を目指していく。
- (4) 本学校評価システムを通して、職員全体が学校の教育活動への共通理解を深め、生徒の人間形成や自己実現に向けた、真に有意義な教育活動に結びつけるように努める。

8 学校アクションプラン（全日制）

平成27年度 富山工業高校アクションプラン -1-

重点項目	教科指導の充実	
重点課題	工業高校生としての学力の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学科では、専門分野に関する検定合格や資格取得に向けた補習を行っている。また、専門分野外の英検、数検ほか検定受検者も増加傾向にある。 ○ 平成26年度は延べ1776人が各種検定や資格試験に合格している。一人平均の資格取得数は1.86となる。 	
達成目標	一人当たりの検定合格または資格取得数	
	一人平均	2.00
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内指導体制の改善・充実と外部の専門技術者の招聘や活用を図る。 ○ 朝学習などの時間の有効活用により学習時間の確保を図る。 ○ ジュニアマイスター制度および単位認定制度の周知徹底を図る。 ○ 検定合格や資格取得を目指し、学習意欲の向上や学習習慣の定着につなげる。 	
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後、合格発表のある検定試験が多数あるため、最終的な集計は3月となるが、すべての学科において、意欲的に検定試験・資格取得に取り組んでいる。 ○ 機械検査・機械加工・熱処理・電子機器組立・建築大工など、多岐にわたって技能検定に取り組んでいる。 ○ 電気工学科において、電気工事士・電験三種などの高度な資格に継続して取り組んでいる。 ○ 建築工学科において、施工管理技術者の学科試験に高い合格率を達成している。 ○ 土木工学科において、測量士補の合格率が2年生で46%、3年生においては、新たに12名が合格し、クラスの取得率が87%となった。 	
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資格の種類によっては補習を朝・昼・放課後に行い、合宿勉強会を行った。さらに、電気工学科においては、他校との合同勉強会を行っている。 ○ 資格の取得に応じて与えられるジュニアマイスター制度の周知を図るため、自作のポスターを掲示した。特に今年度はカラー版のポスターを制作した。 ○ 朝や放課後を利用して資格補習に取り組んだ。 ○ 教科指導の充実という観点から学習指導にも力を入れ、1・2年生では「学び直し」を取り入れ、定期考査前には学年ごとの放課後学習会を行っている。 ○ 互見授業期間を1学期に2週間、2学期に1週間設定し、教員の指導力向上を図った。 	
評 価	C	最終的な合格者数集計は3月になるので現状維持とした。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 達成目標の2.00は妥当だったのか。他校はどうか。 ○ 目標を生徒に開示し、資格取得についてのモチベーションを上げる工夫を考えてはどうか。 ○ 卒業後に資格が必要となったりするので、在学中に取れる資格は早めに取得させたら良い。 	
今後に向けての課題	<p>本校の生徒は、資格取得に熱心であり、学習意欲の向上にもつながっている。また、電気工事士をはじめ技能検定など、技能と知識を身につける資格にも積極的に挑戦して良い結果を残している。さらに、電験三種・測量士補など社会で即戦力となる高度な資格においても計画的に指導が行われており、合格率も向上し、取得率も向上している。さらに、3級を取得したら2級へと、上級の資格を目指し意欲的に取り組んでいる。</p> <p>今後とも、教科指導の充実と学力の向上を図りたい。</p>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

平成27年度 富山工業高校アクションプラン -2-

重点項目	生徒指導の充実	
重点課題	規範意識を持った節度ある生活を確立させる。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自転車や携帯電話・スマートフォンのマナー違反には罪悪感を感じず、違反を繰り返した結果、交通事故に遭ったり、校内での携帯電話・スマートフォンの使用で指導を受けたりする生徒が後を絶たない。いずれも使い方を誤った際の影響を認識させ、生徒の安全確保の観点から正しく使用させる必要がある。 ○ 挨拶、身だしなみについては形式的な面はあるが、良い習慣として定着している。自律心を持って日常生活を送らせることで、実質的な行動ができる生徒を育てたい。そして、生徒が誇れる生徒・学校づくりを推し進め、愛校心を育む。 	
達成目標	交通事故件数、携帯・スマートフォン使用に関する指導件数の低減。	
	昨年度比1割減	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ サイクル安全リーダーによる、自転車乗車マナー向上の呼びかけ、自転車点検、駐輪場整備を通して交通安全意識の向上を図る。 ○ 学校周辺にて登校指導を随時行う。 ○ 保護者や地域の方と協議する場を設け、現状の問題点と対策を共有して、多方面からの指導を実践する。 ○ 来年度100周年の節目を迎えるにあたり、その伝統に誇りを持たせながら、よりよい富山工業高校を築いていく自覚を持たせる。 	
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交通事故件数：27件（目標27件以下、H26：31件） ○ 携帯・スマートフォン指導件数：37人（目標47人以下 H26：53人） 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校風委員をサイクル安全リーダーに任命し、自転車乗車マナーの呼びかけ、駐輪場整理などの他、自転車乗車アンケートから本校生徒の実態を考察させるなど、安全意识の向上を図った。 ○ 各学年と連携をとり、生徒に関わる情報を共有することで、多面的な生徒指導を行った。また、集会では生徒の実態を認識させながら、誇りが持てる生徒、誇りが持てる富山工業高校を築いていけるように生徒の自尊心に呼びかけた。 	
評 価	B	ほぼ達成しているが、自転車での並走運転、歩道での走行など、乗車マナーが徹底できていない。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 携帯電話・スマートフォンの使用について、その危険性を自覚させ、自分の身を守ることを考えさせる指導が必要である。 ○ 信号機の増設などは事故が起きないと実現しない。交通安全対策も他に任せるのではなく、自ら安全を守るよう安全指導を徹底すべきである。 ○ 外部講師を利用したり、具体的な自転車事故例を示したりすることで、その内容について生徒に理解させる指導も必要である。 ○ 毎朝の校門指導では単に形としての挨拶指導ではなく、なぜそうするのかその心を考えさせる指導が大切である。また、人間として、社会人として基本のできた生徒を育ててほしい。 	
今後に向けての課題	生徒は自転車、携帯電話・スマートフォンの利用方法が習慣化されている。注意を呼びかけてもあまり心に留まることがなく、事故に遭ったり、指導を受けたりしている。「生徒に伝える」から「生徒に伝わる」指導法を確立することが課題である。その場に応じ、節度ある行動がとれる生徒を育てたい。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

平成27年度 富山工業高校アクションプラン -3-

重点項目	進路指導の充実	
重点課題	生徒の希望に対応した進路決定	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度は、高等学校再編統合により学年が6学科8クラス編成となって三回目の卒業生を送り出した。生徒一人一人に対するきめ細かな指導・援助を一層充実させ、生徒自らが進路を選択できるように、段階に合わせて指導すると共に、その進路先に適応し、自己実現を図っていく上で必要な諸能力（基礎学力、計画性、判断力、適応力など）の向上に努めることが重要である。 	
達成目標	3学年における進路希望の達成度 (就職・進学を合わせた第1希望合格率)	
	90%	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企業訪問や情報収集を積極的に行い、生徒の就職先の確保に努める。 ○ インターンシップや応募前職場見学等を通して、生徒自らが企業についての情報を収集し、その上で就職先を決定させる。 ○ オープンキャンパス、学校説明会など積極的に参加し、進学先を決定させる。 ○ 資料閲覧室の利用しやすい環境を整え、資料閲覧や相談に対応する。 ○ 面接指導、補習など各教科、各学科の協力を得てきめ細かい指導をする。 	
達 成 度	第1希望合格率は、92.6%（就職92.5%、進学92.9%）であった。	
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 管理職、学年、学科、進路指導部で分担して約130社の企業を訪問し、採用計画や卒業生の就業状況などの把握に努めた。 ○ 求人票受付後は、求人一覧を作成して掲示し、生徒にも配布した。また、求人票の写しを2部ずつファイルに整理し、教室の近くで閲覧できるようにした。 ○ 就職希望者全員が応募前職場見学に参加し、応募先を決定した。 ○ 面接試験などの採用試験対策を、学年・学科・管理職との連携により実施した。 ○ 二次推薦で応募可能な企業を把握し、生徒の希望に応じて情報を提供した。 ○ 学校説明会、オープンキャンパスなどに積極的に参加させ、進学先決定の一助とした。 ○ 受験に向けて、外部模試、学力向上セミナー、校内夏季補習などを実施し、学力の向上・充実の機会とした。 ○ 面接、小論文、教科等の個別指導を実施し、各生徒の希望に応じた受験対策がとれるよう、各教科、各学科との連携を推進した。 ○ 製造業を中心とするインターンシップ（7月上旬に3日間）を実施し、2学年生徒全員が参加した。 	
評 価	A	昨年度と比較すると、進学では1%減少したが、就職では0.6%増加した。
学校評議 員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が専門として学んだ内容と各学科の生徒の進路がほぼ一致していることは、良いことだと思う。 ○ 進学から就職に希望を変更した生徒はどのくらいか。 	
今後 に向けて の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 早い段階からの現実的な進路目標設定と個々の生徒に対応したサポート ○ 社会から求められる人材の育成を目指した指導 ○ 大学生等の就職・採用活動開始時期の変更への対応 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

平成27年度 富山工業高校アクションプラン -4-

重点項目	特別活動の活性化（生徒会活動と学校行事）	
重点課題	生徒会・代議員会を中心とした学校行事の活性化	
現 状	<p>○ 体育大会、球技大会、富工展などの学校行事に対する生徒の意識は高く、協力的に行事を推進することができる。これまでの行事では生徒会や教師が中心的役割を果たしてきたが、代議員会等を活用して生徒達の意見を積極的に取り入れ、生徒達の自主的な計画・立案・運営・活性化を推進する。</p> <p>○</p>	
達成目標	<p>体育大会、球技大会において生徒会を中心として、生徒が自主的に学校行事の企画・運営に取り組み、全校生徒が意欲的に参加し、満足できるような活動を目指す。 （※事前事後のアンケート調査における、全校生徒に対する百分率とする。）</p>	
	運営・企画に積極的な参加意識度	体育大会70%、球技大会60%
	学校行事に対する満足度	体育大会90% 球技大会90%
方 策	<p>○ 体育大会に向けて代議員会・運営委員会・団集会・係り打ち合わせを複数回開き、学校全体（生徒）の意見を集約し、プログラムや競技規則、配点方法の見直しを実施する。</p> <p>○ 球技大会について生徒会が中心となり、代議員を通じてホームルームの意見をまとめ、かつ体育委員、関係部活動部員などが意欲的に企画・運営に参加し満足できることを目指す。</p>	
達 成 度	○ 運営・企画（体育大会60%、球技大会92%） 満足度（体育大会83%、球技大会73%）	
具体的な 取組状況	<p>○ 2年目になる運営委員会を中心に積極的な企画、運営がなされてきた。</p> <p>○ 生徒会、HR、体育委員、関係部員が積極的に運営にたずさわった。</p>	
評 価	B	各行事の企画・運営に関わる意識は高くなってきている。満足度に関しては一般生徒のどちらでもないが多くニーズを検討・分析したい。
学校評議員 の意見	○ 生徒アンケートの結果に体育大会用のテントがほしいとの要望があったが、校区の小学生の要望と同じであった。生徒の考えることは、小学生も高校生も変わりはない。この点を考慮して生徒を指導してほしい。	
今後に 向けて の課題	<p>○ 更に生徒中心の企画・運営をすすめたい。</p> <p>○ 球技大会の競技種目、場所の工夫が必要</p>	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

学校アクションプラン（定時制）

平成27年度 富山工業高等学校アクションプラン -1-

重点項目	学習活動	
重点課題	基礎学力の向上と各種資格取得の推進	
現 状	高校入学以前の学習面のつまずきや集団生活への不適應による基礎学力の不足から、学習意欲に乏しく、授業への参加も消極的である。特に、高校生として求められる漢字や文章読解力、計算能力や物事を論理的に考える力、および生活するうえで必要と思われる一般的な教養については、個人差はあるが身につけていない生徒が多い。	
達成目標	全国工業高校長協会主催の資格や国家資格に1つ以上合格する生徒の割合 60% 以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科間で連携して継続的な指導を行うことにより、学習習慣の確立を目指し、基礎学力の向上を図る。 ○ 個々の生徒の学力に応じた目標を設定し、自作教材を用いて学習させる。 ○ 生徒が受検を希望する検定に応じた補習等を実施し、合格に必要な知識の理解と定着を図る。 ○ 学校設定科目「生活技能」を活用し、基礎学力を礎にした工業の専門的な知識や技能の習得、および社会生活で必要なマナーや教養を身に付けさせる指導法を工夫する。 	
達成度	全国工業高校長協会主催の資格や国家資格に1つ以上合格する生徒の割合 合格者：9名／21・・・42% 【合格者9名のうち、1種目合格：6名、2種目合格：3名】	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本校入学時につまずき診断テストを実施して生徒個々の学力の把握し、学校設定科目「生活教養」を活用して、国語・数学・英語の基礎学力向上を計っている。 ○ 学校設定科目「生活技能」を活用して、各学科における資格取得に必要な「知識」や「技能」の習得を計るとともに、その理解や定着の度合いの確認を行っている。 ○ 資格取得希望生徒に対して、長期休業中および始業前に補習を行った。 	
評 価	D	12月現在、学習進度により受検種目のない生徒3名、受検全種目不合格の生徒3名おり、目標には届かなかった。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外部講師を積極的に招くなど、キャリア教育を充実させ、進路目標を実現させるために学力の向上や資格取得の大切さを教えてはどうか。 	
今後に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の実力にあった資格種目の精選。 ○ 生徒個々の学力に応じた指導法の研究と補習形態の工夫。 ○ 資格取得意欲の喚起。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

平成27年度 富山工業高等学校アクションプラン -2-

重点項目	学校生活																																											
重点課題	基本的な生活習慣の確立																																											
現 状	<p>家庭生活や生育歴、社会生活状況において様々な問題点を抱えている生徒が多く、学校の時間帯に合わせた生活設計が困難であったり、適応性の問題から規則やマナーを遵守する態度が欠けていたりする傾向にある。また、授業遅刻や早退も少なくない。</p> <p>一方で生徒の中には、きちんとした高校生活を歩もうと努力している姿も見られ、働きながらも年間を通じ無欠席の生徒も存在する。こうした生徒たちには、毎日登校する習慣を大切に、自分の将来を考えている向きが感じられる。このように目標と向上心を持って、自律性を育む生徒が増えることは、生徒同士の相互作用により出席状況の改善のみならず学校生活の充実へ繋がると考える。</p>																																											
達成目標	<p>年間の皆勤・精勤生徒の割合 30% 以上 (平成23年度:21%、24年度:20%、25年度:32%、26年度:26%) *皆勤 = 一カ年の欠席が0日 *精勤 = 一カ年の欠席が3日以内 (皆勤・精勤においては欠課時数4で欠席1日として換算する)</p>																																											
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 生活状況の確認に努め、生活リズムを確立させる。 授業遅刻や早退がないよう声かけ指導や校内巡視等の充実を図る。 将来を見据えた進路指導の充実を図り、日常生活の見直しを行う。 健康管理の個別指導を行い、疾病の予防・体調管理を行う。 保護者と緊密に連絡をとりながら、生徒の心身等の変調について、早期発見、早期対策を講じる。 年度末に表彰する皆勤賞・精勤賞を生徒の励みにさせ、日々の生活支援を行う。 																																											
達 成 度	今年度の皆勤・精勤生徒の割合: 50% (実質登校者数18名中9名12月24日現在)																																											
具体的な 取組状況	<p>① 生徒の健康や生活状態を確認 (登校時、ST などでの声かけ) ② 始業前と授業間の巡回指導 (教員2名での校内を見回り、出席状況を確認) ③ 保護者との連携 (生徒の状況を相互で掌握、速やかに対応) ④ 教育相談 (非常勤カウンセラーとの面談により悩みなどの早期発見) ⑤ 授業出欠状況の確認と生活指導 (授業担当者による遅刻・欠席時数の集計)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学年</th> <th>1学期</th> <th>2学期</th> <th>合計</th> <th rowspan="2">一人当たり 年間欠席数</th> </tr> <tr> <th>欠席数</th> <th>欠席数</th> <th>欠席数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年(3名)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>2年(5名)</td> <td>3</td> <td>10</td> <td>13</td> <td>2.6</td> </tr> <tr> <td>3年(7名)</td> <td>33</td> <td>30</td> <td>63</td> <td>9.0</td> </tr> <tr> <td>4年(3名)</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>37</td> <td>45</td> <td>82</td> <td>全校平均欠席日数</td> </tr> <tr> <td>男18 18名</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>4.56 日</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>* 2学期は12月24日現在</td> </tr> </tbody> </table>	学年	1学期	2学期	合計	一人当たり 年間欠席数	欠席数	欠席数	欠席数	1年(3名)	0	0	0	0.0	2年(5名)	3	10	13	2.6	3年(7名)	33	30	63	9.0	4年(3名)	1	5	6	2.0	計	37	45	82	全校平均欠席日数	男18 18名				4.56 日					* 2学期は12月24日現在
学年	1学期		2学期	合計	一人当たり 年間欠席数																																							
	欠席数	欠席数	欠席数																																									
1年(3名)	0	0	0	0.0																																								
2年(5名)	3	10	13	2.6																																								
3年(7名)	33	30	63	9.0																																								
4年(3名)	1	5	6	2.0																																								
計	37	45	82	全校平均欠席日数																																								
男18 18名				4.56 日																																								
				* 2学期は12月24日現在																																								

<p>評 価</p>	<p>A</p>	<p>現在においては、目標とする割合30%を大幅に上回っている。昨年度の反省から、遅刻や早退をしないよう日常から生徒とコミュニケーションをとり、生徒理解に努めるなどの対応策が功を奏したようである。このほか、家庭の事情等による退学者が2名いたこと、生徒の学ぶ目的意識がまだ低いことなど指導の課題は残されている。目的意識を持ち、進級や卒業が出来るよう欠課時数を意識し、意欲的に登校する（授業に参加する）生徒が増加するよう、今後も粘り強く指導を継続したい。</p>
<p>学校評議員の意見</p>	<p>○ 学校生活の充実のために、学校に期待というモチベーションを持たせることが大切である。 ○ 外部講師を利用して、基本的な生活習慣について生徒に考えさせることも必要である。</p>	
<p>今後に向けての課題</p>	<p>① 生徒個々に応じた生活目標を設定し、日々の生活状況を確認しながら助言する。 ② 充実感や達成感を与えるよう指導を工夫し、学習活動を行う。 ③ 卒業後の就職を念頭におき、目的意識をもって学校生活を送れるようにする。 ④ スクールカウンセラーと連携し、生徒のストレスへの対処をスピーディに行う。 ⑤ 家庭環境に留意し、必要に応じて中学校や外部機関と連携を行う。</p>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)